

すぐわかるESG 第1回

今回から4回シリーズで、
ESGの基本概念と
取り組みについて紹介します！

近年、ESGという言葉を目にする機会が増えています。人間が豊かさを追い求めた結果、気候変動や資源の枯渇など、地球環境に深刻な影響を与えるようになりました。また、労働環境や所得格差の拡大など、社会的問題も発生しています。それらを解決するために、企業は利益の追求だけではなく、環境や社会へ配慮した健全な経営体制を構築し、自らを管理することが求められます。

企業の長期的な成長のためにはESGの観点から事業を見直し、課題やリスクを把握する必要があるとされています。

ESGって？

ESGは、Environment（環境）、Social（社会）、Governance（ガバナンス）の頭文字を取った言葉です。企業の社会的責任など、経営において配慮すべき要素として注目されています。



SDGsとESG、どう違うの？

SDGsは「持続可能な開発目標」と訳され、2030年までに達成すべき17の目標と、達成するための具体的な169のターゲットによって構成されています。「誰ひとり取り残さない」をキーワードに、人種や国を超えて取り組む目標です。

それに対しESGは、「長期的な企業の成長のために配慮すべき要素」であり、あくまで「会社経営上の取り組み」です。とはいえ、SDGsとESGはともに「持続可能な社会」を目指しており、区別して考える必要はありません。ESGに取り組むことで、SDGsの達成につながります。

ESGの取り組みは、すでに実行していることもたくさんあります！
次回、Environment（環境）分野における当社での取り組みをご紹介します。